われの症例においても，偏平上皮癌8例(男6，女2)，腺癌16例 (男6，女10)，未分化癌11例 (男11，女1) と同様の傾向を認めた．^{67}Ga scintigraphy で異常を認めなかった症例は75例中15例で，肺癌4例，良性腫瘍4例で全例，炎症6例，骨折1例であり，腫瘍の大きさ，炎症の活動度などが関与していると推定される．

肺野は腹部より ^{67}Ga scintigraphy の解釈が容易であり，X-photo よりも場合により明瞭に病変を指摘できる場合があり，胸部疾患，特に肺癌の診断の一翼をになう非常に有用な非侵襲的診断法であることを強調したい．

16. ^{67}Ga-citrate の著明な集積を認めた胃癌の2症例

沢　久　大村　昌弘
池田　穂積　増田　安民
南川　義章　越智　宏暢
小野山靖人
(大阪市大・放)

われわれは胃透視，血管造影にて胃粘膜下腫瘍が疑われ，胃癌との鑑別が困難であった2症例について，ガリウムシンチを施行し，その鑑別上の意義について検討した．

〔症例 1〕 61歳男性．胃透視，血管造影にて胃の悪性リンパ腫が疑われ，ガリウムシンチ施行．腫瘍部に一致して著しいガリウムの集積が認められ，摘出標本での検索にて腫瘍部でのガリウム集積は正常胃組織の7.4倍であった．病理組織学的には低分化型腺癌であり，壊死巣や炎症所見はほとんど認められなかった．

〔症例 2〕 69歳女性．胃透視，血管造影にて胃粘膜下腫瘍，特に悪性筋原性腫瘍が疑われた．ガリウムシンチにて腫瘍部に一致して著しいガリウムの集積が認められ，摘出標本での検索にて腫瘍部でのガリウム集積は正常胃組織の3.7倍であった．病理組織学的には高分化型腺癌であった．

ガリウムシンチにて胃粘膜下腫瘍，なかでも悪性リンパ腫と胃癌との鑑別を試みたが，今回報告した症例のごとく，胃癌にも著明なガリウム集積が認められる場合があり，本法による両者の鑑別は一般的には困難であると思われる．

17. びまん性間質性肺疾患における ^{67}Ga シンチ

寺川　和彦　太田　勝康
藤本　繁夫　小川　和紀
遠山　忠秀　栗原　直嗣
塩田　憲三
(大阪市大・1内)
中島　秀行　沢　久
増田　安民　越智　宏暢
小野山靖人
(同・放)

前回の本研究会で，肺 Ga シンチによりびまん性肺疾患の活動性，非活動性の判定，治療効果の判定について報告した．その後症例を重ね約100例を経験している．今回はこのうち肺 Ga シンチが極めて有用であった，すなわち胸部X線写真や血液ガス所見より早期に全肺野にびまん性に Ga が集積した細網肉腫の症例について述べる．

症例は65歳の女性で，某医大，当院あわせてリニアックを喉頭正面に5,300 R 照射，VEMP 療法を5週間施行されている．自覚症状のほとんどない時に，転移の有無をしらべるため Ga シンチを行なったところ，全肺野にII度からIII度の強い集積を認めた．このときの胸部X線写真は正常で，血液ガスでは軽度の低酸素血症が認められるのみであった．肺生検により肺炎と診断し，その原因として抗癌剤が最も疑われた．

一般的にこのような肺炎では，低酸素血症が胸部の異常陰影に先立って出現すると言われているが，肺 Ga シンチについてはあまり報告がない．したがって，悪性疾患において，抗癌剤治療を行なう際には，症状のない時期においても血液ガスを頻回にチェックし，少しでも低酸素血症が認められたら，Ga シンチをただちに行なうことが，肺炎の早期発見のために有用であると考える．

Presented by Medical*Online